

平成20年度 定期作況報告

(10月20日現在)

北海道立中央農業試験場

水稻の部

水田・転作科(岩見沢市)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より1.3℃低く、降水量は平年の99%、日照時間は平年の86%であり、低温、寡照に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より0.6℃低く、降水量は平年の175%、日照時間は平年の85%であり、多雨、寡照に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より2.5℃高く、降水量は平年の33%、日照時間は平年の127%であり、高温、少雨、多照に経過した。

以上、1ヶ月の平均では平均気温は平年より0.2℃高く、降水量は平年の104%、日照

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	18.2	19.8	△ 1.6	16.8	17.7	△ 0.9	18.1	15.5	2.6	17.7	17.6	0.1
最低気温(℃)	9.0	10.1	△ 1.1	8.3	8.6	△ 0.3	8.5	6.1	2.4	8.6	8.3	0.3
平均気温(℃)	13.6	14.9	△ 1.3	12.6	13.2	△ 0.6	13.3	10.8	2.5	13.2	13.0	0.2
降水量(mm)	40.0	40.4	△ 0.4	59.0	33.8	25.2	10.0	30.6	△ 20.6	109.0	104.8	4.2
日照時間(hr)	47.8	55.5	△ 7.7	41.0	48.5	△ 7.5	63.6	50.1	13.5	152.4	154.1	△ 1.7

注) データは「アメダス岩見沢」を使用。平年値は平成10～19年の10ヶ年平均値を農試が算出し、使用。

最高、最低気温は期間内の平均値、平均気温は各日最高、最低気温の平均で期間内の平均値をそれぞれ用いた。

降水量、日照時間は期間内の積算値を用いた。

II 作況

5月20日 やや不良

事由:本年は根雪終日が10日早く、圃場の乾燥が早かった。播種は平年より1日早い4月18日に行った。播種後の好天により、出芽まで5日で、出芽揃も概ね良好であった。4月下旬から5月上旬は好天が続いた。しかし、5月10日前後で最低気温が0℃前後となった日が数日続き、特に、5月10日は-0.8℃まで冷え込んだ。また、5月中旬は、曇天などにより気温、日照時間ともに平年より下回った。そのため、苗の生育は遅延した。移植は平年並の5月21日に行った。

移植時における苗質は、莖数、主稈葉数は両品種ともにほぼ平年並であった。しかし、「きらら397」、「ほしのゆめ」で草丈がそれぞれ0.7cm、1.4cm平年より短く、また、乾物重も「きらら397」、「ほしのゆめ」の両品種ともそれぞれ23%、26%平年を下回っていた。

以上により、5月20日時点の作況は、やや不良である。

6月20日 やや不良

事由:移植は平年並の5月21日に行った。移植前の低温により、移植時の地上部乾物重が平年より少なく、苗質は平年より若干劣った。また、移植後も低温、寡照に経過し、6月20日における草丈は、「きらら397」で平年の80%、「ほしのゆめ」で平年の75%で平年を下回った。また、莖数も「きらら397」で平年の91%、「ほしのゆめ」で平年の82%と両品種とも平年を下回った。ただし、主稈葉数は平年に比べ「きらら397」で0.1葉上回り、「ほしのゆめ」では0.3葉下回り、ほぼ平年並であった。

以上により、6月20日時点の作況は、やや不良である。

7月20日作況 平年並

事由:6月下旬から7月中旬まで平均気温が平年より高めに推移し、特に7月上旬は3.0℃上回り、それまで平年より遅れていた生育が促進された。幼穂形成期は平年に比べ「きらら397」、「ほしのゆめ」とも3日遅かったが、7月20日における主稈葉数はそれぞれ0.5葉、0.4葉ともに平年より上回った。また、草丈は、それぞれ平年比108%、104%となり、莖数もそれぞれ平年比106%、105%と平年をわずかに上回った。

以上により、7月20日時点の作況は、平年並である。

8月20日作況 やや良

事由:7月下旬から8月中旬まで平均気温が平年より低く推移した。しかし、8月上旬の日照時間は平年比166%と多く、7月下旬から8月中旬の期間でも平年より多かった。そのため、生育は平年並に進んだ。止葉始は平年より1日遅く、出穂期は平年並であった。8月20日における稈長は、「きらら397」で平年比109%、「ほしのゆめ」で105%と平年より長く、穂長も「きらら397」で105%、「ほしのゆめ」で101%で平年並か長かった。また、穂数は「きらら397」で平年比106%、「ほしのゆめ」で107%とやや多かった。

以上により、8月20日時点の作況は、やや良である。

9月20日作況 やや良

事由:8月下旬は平均気温が平年より低く、また、日照時間も平年比74%と少なかった。しかし、9月に入り、平均気温は平年より高く、日照時間も平年より多く推移した。そのため、8月下旬までは緩慢に進んでいた登熟が、その後遅れを取り戻し、成熟期は、現時点で成熟期に達している「ほしの

10月20日作況 良

事由:成熟期は「きらら397」で9月24日、「ほしのゆめ」で9月21日であり、平年に比べそれぞれ2日、1日遅く、登熟日数もそれぞれ平年より2日、1日長かった。登熟歩合は「きらら397」で平年より6.1ポイント、「ほしのゆめ」で4.7ポイントそれぞれ高く、精籾重は「きらら397」で平年比115%、「ほしのゆめ」で110%であった。千粒重は「きらら397」、「ほしのゆめ」ともにほぼ平年並であり、屑米歩合はそれぞれ平年比76%、75%であった。そのため、精玄米重は「きらら397」が62.7kg/aで平年比117%、「ほしのゆめ」が56.3kg/aで平年比114%と多収であった。

注1)作況指数(収量平年比)と作柄の判定基準 (農林水産省の統計基準による)

作況指数	90～	91～94	95～98	99～101	102～105	106～
作柄	著しい不良	不良	やや不良	平年並	やや良	良

品種名		きらら397 中苗			ほしのゆめ 中苗			ななつぼし 中苗	
項目	年次	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	(参考)
播種期	(月.日)	4.18	4.19	△ 1	4.18	4.19	△ 1	4.18	4.18
移植期	(月.日)	5.21	5.21	0	5.21	5.21	0	5.21	5.22
幼穂形成期	(月.日)	7.10	7.07	3	7.08	7.05	3	7.07	7.04
止葉始	(月.日)	7.24	7.23	1	7.22	7.21	1	7.19	7.19
出穂期	(月.日)	8.05	8.05	0	8.04	8.04	0	8.03	8.04
成熟期	(月.日)	9.24	9.22	2	9.21	9.20	1	9.22	9.19
穂揃日数	(日)	6	6.8	△ 0.8	6	7.8	△ 1.8	7	6.0
出穂まで日数	(日)	109	108	1	108	107	1	107	108
生育日数	(日)	159	156	3	156	154	2	157	154
移植時地上部乾物重(g/100本)		1.79	2.33	△ 0.54	1.73	2.35	△ 0.62	1.81	2.40
草丈 (cm)	移植時	9.6	10.3	△ 0.7	9.3	10.7	△ 1.4	9.4	9.9
	6月20日	19.7	24.7	△ 5.0	20.2	26.9	△ 6.7	22.0	26.5
	7月20日	60.2	55.8	4.4	60.4	58.2	2.2	67.6	61.2
茎数 (移植時:本/個体) (その他:本/m ²)	移植時	1.0	1.1	△ 0.1	1.2	1.2	0.0	1.0	1.1
	6月20日	308	337	△ 29	288	352	△ 64	335	306
	7月20日	943	887	56	928	888	40	930	802
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.3	3.3	0.0	3.1	3.3	△ 0.2	3.2	3.1
	6月20日	6.9	6.8	0.1	6.3	6.6	△ 0.3	6.7	6.8
	7月20日	11.1	10.6	0.5	10.3	9.9	0.4	10.5	10.4
	止葉	11.8	11.2	0.6	10.8	10.2	0.6	10.6	10.6
稈長	(cm)	68.6	63.1	5.5	70.0	66.4	3.6	71.8	66.4
穂長	(cm)	17.2	16.4	0.8	15.7	15.6	0.1	17.2	16.7
穂数	(本/m ²)	775	731	44	828	774	54	810	700
一穂粒数	(粒)	49.1	48.7	0.4	45.0	44.3	0.7	54.5	57.0
m ² 当粒数	(百粒)	381	356	25	373	343	30	441	399
稔実歩合	(%)	91.0	80.8	10.2	90.2	85.8	4.4	87.1	80.2
登熟歩合	(%)	77.9	71.8	6.1	80.9	76.2	4.7	84.7	68.7
籾摺歩合	(%)	75.8	74.7	1.1	72.1	69.6	2.5	76.3	73.5
屑米歩合	(%)	7.5	9.9	△ 2.4	11.9	15.9	△ 4.0	7.1	13.1
千粒重	(g)	22.4	22.6	△ 0.2	21.6	21.4	0.2	21.6	21.3
わら重	(kg/a)	67.3	68.5	△ 1.2	69.8	68.8	1.0	73.2	80.0
精籾重	(kg/a)	82.7	71.8	10.9	78.1	71.3	6.8	82.4	72.1
精玄米重	(kg/a)	62.7	53.6	9.1	56.3	49.6	6.7	62.9	53.0
収量平年対比	(%)	117	100	17	114	100	14	(119)	(100)
検査等級			2上	—		2上	—		1下

注1) 平年値は前7ヶ年中、平成16年(最豊)、15年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2) 一昨年より「ななつぼし」(中苗紙筒)の調査を開始した。同品種の(参考)は過去2か年の平均値

注3) 耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a 堆肥1.5t/10a

播種量 : 中苗紙筒=180cc/箱

栽植密 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え

反 復 : 2

注4) 刈り取り面積は一区3.6m²、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

畑作の部

畑作科(長沼町)

I 気象概況

9月下旬：平均気温は平年より1.8℃低く、降水量は平年の30%、日照時間は平年の110%であり、低温・少雨・多照に経過した。

10月上旬：平均気温は平年より1.7℃低く、降水量は平年の214%、日照時間は平年の92%であり、低温・多雨に経過した。

10月中旬：平均気温は平年より1.8℃高く、降水量は平年の24%、日照は平年の122%であり、高温・少雨・多照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ気温は平年より0.4℃低く、降水量は平年の86%、日照時間は平年の

9月下旬～10月中旬気象表

項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	13.2	15.0	△1.8	12.0	13.3	△1.3	12.8	11.0	1.8	12.7	13.1	△0.4
最高気温(℃)	18.4	20.1	△1.7	16.2	18.1	△1.9	17.7	15.8	1.9	17.4	18.0	△0.6
最低気温(℃)	7.8	9.8	△2.0	7.7	8.5	△0.8	8.0	5.7	2.3	7.8	8.0	△0.2
降水量(mm)	11.0	36.9	△25.9	58.5	27.3	31.2	5.5	23.3	△17.8	75.0	87.5	△12.5
降水日数(日)	1.0	3.5	△2.5	4.0	4.1	△0.1	1.0	3.2	△2.2	6.0	10.8	△4.8
日照時間(hr)	58.5	53.3	5.2	42.6	46.2	△3.6	61.4	50.2	11.2	162.5	149.7	12.8

注1) データは「アメダス長沼」を使用。平年値は過去10年間を用い、中央農試で算出した。△は減を示す。なお、データは、平成16年までは確定値、平成17年からは速報値を用いた。確定値の最高・最低気温は、平成15年1月より測定法が変更されている(毎正時→10分計)

注2) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値を用いた。

1. 秋まき小麦(平成20年播種)

9月20日作況

平年並

事由：播種は9月18日で平年値より3～5日遅いが、安定した越冬のために必要な主茎葉数6葉以上を確保するためには問題が無い播種時期である。

10月20日作況

やや不良

事由：播種後9月下旬は低温、少雨傾向に推移し、出芽期は播種期の遅れを上回る平年比5～7日遅れとなった。10月上旬まで低温傾向が続き、10月20日現在で草丈及び茎数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

項目	品種名 年次	ホクシン			ホロシリコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(H20.月.日)	9.18	9.15	3	9.18	9.13	5
出芽期	(H20.月.日)	9.26	9.21	5	9.26	9.19	7
出穂期	(H21.月.日)		6.05			6.11	
成熟期	(H21.月.日)		7.18			7.25	
冬損程度	(0:無～5:甚)		1.4			1.3	
草丈 (cm)	H20.10.20	17.0	21.2	△ 4.2	17.3	26.2	△ 8.9
	H21.5.20		53.1			52.0	
	H21.6.20		98.0			106.2	
茎数 (本/m ²)	H20.10.20	664	857	△ 193	548	1050	△ 502
	越冬前(11月)		1428			1540	
	越冬後(4月)		1556			1688	
	H21.5.20		1167			1359	
	H21.6.20		682			749	
成熟期における	稈長 (cm)		91			103	
	穂長 (cm)		9.2			8.7	
	穂数(本/m ²)		642			664	
倒伏程度	(0:無～5:甚)		1.6			3.1	
子実重	(kg/10a)		642			593	
リットル重	(g)		804			789	
千粒重	(g)		37.9			42.6	
品質	(等級)		2等			2等	
子実重平年対比	(%)		100			100	

注1) 平年値は前7か年中、最凶(ホクシンH18、ホロシリH14)、最豊(ホクシンH15、ホロシリH20)を除く5か年平均(収穫年度)。

2) △は平年より早、短、少を表す。

3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

2. 春まき小麦

5月20日：やや良

事由：根雪終は平年より5日早い3月25日（融雪剤使用圃場）であった。播種期は平年より1日早い4月15日であった。播種後の気温が高めに推移したため、出芽日数は短く、出芽期は平年より6日早い4月24日であった。出芽後も気温が高めとなったため生育は進んだ。5月中旬の低温で生育はやや緩慢となったものの、草丈および茎数は平年を上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

6月20日：やや良

事由：気温は6月上旬がやや高く推移したが、5月下旬と6月中旬は低く推移した。このため、生育の進捗は緩慢となったが、前節までの生育が進んでいたため、出穂期は平年より2～3日早かった。生育は旺盛であり、草丈および茎数が平年を上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である。

7月20日：やや良

事由：稈長は平年よりやや長く、穂長は概ね平年並みである。前節までの茎数が多めに推移したことから、穂数は平年を上回っている。

以上により、現在の作況はやや良である

8月20日：平年並

事由：成熟期は平年より4～5日早かった。穂数は平年を上回ったが、出穂期から成熟期までの日数が短かったため一穂粒数と千粒重は平年を下回った。このため子実重は、ハルユタカで平年比102%、春よ恋で平年比97%と、総体的に平年並となった。

以上により、現在の作況は平年並である。

項目 \ 年次	品種名	ハルユタカ			春よ恋		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	4.15	4.16	△ 1	4.15	4.16	△ 1
出芽期	(月.日)	4.24	4.30	△ 6	4.24	4.30	△ 6
出穂期	(月.日)	6.19	6.21	△ 2	6.18	6.21	△ 3
成熟期	(月.日)	7.30	8.03	△ 4	7.29	8.03	△ 5
草丈 (cm)	5月20日	25.1	20.4	4.7	25.5	20.8	4.7
	6月20日	87	77	10	89	80	9
茎数 (本/m ²)	5月20日	812	540	272	963	567	396
	6月20日	759	726	33	781	700	81
7月20日 または 成熟期 の	稈長 (cm)	92	88	4	98	95	3
	穂長 (cm)	8.8	8.4	0.4	8.4	8.6	△ 0.2
	穂数 (本/m ²)	490	469	21	573	480	93
子実重	(kg/10a)	500	489	11	535	552	△ 17
一穂粒数	(粒)	29.3	31.8	△ 2.5	32.5	34.3	△ 1.8
千粒重	(g)	39.7	41.7	△ 2.0	40.7	42.9	△ 2.2
リットル重	(g)	807	812	△ 5	813	821	△ 8
品質	(等級)	2中			2中		
子実重平年対比	(%)	102	100	2	97	100	△ 3

※) 平年値は前7カ年中、最豊(平成14年)、最凶(平成13年)を除く5カ年平均。

一穂粒数は、各反復で有効穂を50穂調査。リットル重は1リットル升による測定。

3. 大豆

6月20日 平年並

事由：播種期は平年より3日早い5月19日であった。5月下旬が低温に経過したが、出芽期は平年並の6月2日であった。主茎長および主茎節数はほぼ平年並であった。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日 やや良

事由：6月下旬までの好天により主茎長、主茎節数、分枝数は平年よりやや多く、開花期は平年よりツルムスメで6日、トヨムスメで3日早かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

8月20日 やや良

事由：7月下旬から8月上旬にかけてやや低温に推移したが、日照と適度な降水量があったこと、また7月中旬までに十分な生育が確保されていたことにより、主茎長は平年より長く、主茎節数と分枝数も平年並からやや多かった。また、莢数はツルムスメを除いて平年より多かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

9月20日 平年並

事由：8月下旬は低温に推移したが、その後高温に推移し、これまでに十分な生育が確保されていたこともあり、主茎長は平年よりやや長く、分枝数も多かった。着莢数は前節に引き続き「ツルムスメ」で平年より少なく「スズマル」で多かったが、「トヨムスメ」と「ユウヅル」は平年並となった。

以上により、現在の作況は平年並である。

10月20日 良

事由：成熟期は平年より6～8日早かった。着莢数は、平年と比較して「ツルムスメ」で少なく、「ユウヅル」と「トヨムスメ」で概ね平年並であり、「スズマル」では多かった。一莢内粒数はいずれの品種も平年より多かった。百粒重は「ツルムスメ」と「ユウヅル」が平年より重く、「トヨムスメ」と「スズマル」は平年並であった。この結果、各品種の子実重は平年比109～135%と多収となった。屑粒率は、「ツルムスメ」、「トヨムスメ」「スズマル」では平年より低く、「ユウヅル」では裂開粒が多かったため、屑粒率は高かった。

3. 大豆

品種名 項目 \ 年次		ツルムスメ			ユウヅル			トヨムスメ			スズマル		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3	5.19	5.22	△ 3
出芽期	(月.日)	6.02	6.01	0	6.02	6.01	1	6.02	6.01	1	6.02	5.31	2
開花期	(月.日)	7.16	7.22	△ 6	7.27	7.31	△ 4	7.15	7.18	△ 3	7.23	7.27	△ 4
成熟期	(月.日)	9.24	10.01	△ 8	10.14	10.19	△ 6	9.23	9.28	△ 6	9.26	10.03	△ 7
主茎長 (cm)	6月20日	9.1	8.8	0.3	9.0	9.0	△ 0.0	9.8	10.3	△ 0.5	7.3	8.2	△ 0.9
	7月20日	51.5	43.8	7.7	46.0	41.2	4.8	51.7	48.1	3.6	38.0	37.2	0.8
	8月20日	65.0	58.0	7.0	92.3	86.2	6.1	62.7	60.6	2.1	75.0	71.5	3.5
	9月20日	63.4	58.6	4.8	93.9	87.1	6.8	64.3	61.1	3.2	73.8	72.6	1.2
	成熟期	63.4	57.9	5.5	92.7	87.0	5.7	64.3	60.4	3.9	76.4	72.6	3.8
主茎節数 (節)	6月20日	3.4	3.4	△ 0.0	3.2	3.4	△ 0.2	3.2	3.1	0.1	3.1	3.4	△ 0.3
	7月20日	13.0	10.4	2.6	12.1	10.3	1.8	9.9	9.5	0.4	12.3	10.1	2.2
	8月20日	13.7	12.2	1.5	15.7	16.0	△ 0.3	10.1	10.5	△ 0.4	15.2	14.3	0.9
	9月20日	13.7	12.2	1.5	15.8	15.9	△ 0.1	10.4	10.3	0.1	14.8	14.3	0.5
	成熟期	13.7	12.0	1.7	15.9	16.1	△ 0.2	10.4	10.3	0.1	14.3	14.2	0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	6.7	5.8	0.9	4.1	4.2	△ 0.1	6.6	6.1	0.5	7.8	7.1	0.7
	8月20日	7.6	6.4	1.2	4.1	4.8	△ 0.7	7.3	6.3	1.0	13.8	11.0	2.8
	9月20日	8.8	6.2	2.6	6.0	4.2	1.8	8.9	6.0	2.9	12.9	10.7	2.2
	成熟期	8.8	6.4	2.4	3.8	3.7	0.1	8.9	5.8	3.1	11.4	9.6	1.8
着莢数 (莢/株)	8月20日	50.6	55.8	△ 5.2	46.7	39.2	7.5	72.7	66.9	5.8	158.8	138.8	20.0
	9月20日	47.3	53.1	△ 5.8	53.3	52.9	0.4	61.6	63.6	△ 2.0	136.6	119.0	17.6
	成熟期	47.3	53.4	△ 6.1	53.8	51.1	2.7	61.6	62.6	△ 1.0	132.1	114.6	17.5
一莢内粒数	1.85	1.75	0.10	1.86	1.75	0.11	1.90	1.79	0.11	2.53	2.33	0.20	
子実重	(kg/10a)	381	335	46	413	306	107	406	372	34	367	318	49
百粒重	(g)	53.6	46.5	7.1	51.2	42.6	8.6	40.6	39.8	0.8	15.1	15.0	0.1
屑粒率	(%)	1.4	2.4	△ 1.0	10.5	3.4	7.1	0.6	1.9	△ 1.3	0.8	2.0	△ 1.2
品質	(等級)		3上			3下			3下			2下	
子実重平年対比 (%)		114	100		135	100		109	100		115	100	

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、16年(最豊)を除く5か年平均。

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%換算値。

4. 小豆

6月20日 やや不良

事由：播種時期の降雨により、播種期は平年より4日遅い5月29日であった。

6月上旬の気温はやや高く経過し、出芽期は平年より3日遅い6月15日であったが、6月中旬はやや低温に経過し、現在のところ主茎長と主茎節数は平年を下回っている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日 やや不良

事由：6月下旬～7月上旬にかけて降水量が平年より少なく、干ばつ傾向に推移したため、生育はやや停滞し、主茎節数が平年よりやや多かったが、主茎長は平年より2.4cm低く、分枝数が2.2本少なかった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日 やや不良

事由：開花期は平年より1日早かった。現在のところ前節に引き続き、主茎長と分枝数は平年を下回り、主茎節数もやや少ない。また、着莢数も平年の91%と少なかった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

9月20日 やや不良

事由：成熟期は平年より1日早かった。成熟期の主茎長、主茎節数及び分枝数はやや平年を下回り、着莢数も前節に引き続き平年の91%であった。

以上により、現在の作況はやや不良である。

10月20日 やや良

事由：成熟期の着莢数は平年より少なかったが、一莢内粒数がやや多く、百粒重も重かったため、子実重は平年比104%となった。屑粒率は平年より少なかった。

品種名 項目 \ 年次		エリモシヨウズ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.29	5.25	4
出芽期	(月.日)	6.13	6.10	3
開花期	(月.日)	7.24	7.25	△ 1
成熟期	(月.日)	9.09	9.10	△ 1
主茎長 (cm)	6月20日	3.1	4.1	△ 1.0
	7月20日	18.6	21.0	△ 2.4
	8月20日	60.9	65.2	△ 4.3
	成熟期	65.0	67.1	△ 2.1
主茎節数 (節)	6月20日	0.9	1.6	△ 0.7
	7月20日	8.6	8.2	0.4
	8月20日	12.4	13.1	△ 0.7
	成熟期	12.3	13.0	△ 0.7
分枝数 (本/株)	7月20日	2.1	4.3	△ 2.2
	8月20日	3.7	5.1	△ 1.4
	成熟期	3.1	4.3	△ 1.2
着莢数 (莢/株)	8月20日	55.2	60.6	△ 5.4
	成熟期	48.8	53.9	△ 5.1
一莢内粒数		6.46	6.10	0.36
子実重	(kg/10a)	351	339	12
百粒重	(g)	13.7	13.2	0.5
屑粒率	(g)	3.5	6.4	△ 2.9
品質	(等級)		3中	
子実重平年対比	(%)	104	100	

5. ばれいしょ

5月20日

作況：平年並

事由：本年は融雪期が平年より5日早く、その後も4月は高温寡雨に推移し、植付期は平年より3日早まった。植付後の5月は2半旬以降一転して低温傾向に推移しており、5月20日現在で一部萌芽は始まっているものの萌芽期には至っていない。

以上により、現在の作況は平年並である。

6月20日

作況：平年並

事由：植付期は平年より3日早く、5月中旬がやや低温傾向であったものの萌芽期は平年より5日早まった。6月20日時点の茎長は平年よりやや大きく、茎数は平年をやや少な目である。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日

作況：やや不良

事由：7月に入り高温に推移し、開花始は平年より1日早く、茎長はやや短く、茎数は少ない。7月2半旬より茎葉の黄化が始まっており、枯凋期の早まりによる塊茎肥大期間の短縮が懸念される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日

作況：良

事由：7月下旬以降低温傾向に推移したため、枯凋の促進は緩慢となり、平年より3日早く枯凋期を迎えた。このため塊茎肥大期間の短縮は避けられ、肥大は順調であった。株当たりの上いも数はやや少ないものの、上いも平均一個重は平年より大きく、上いも重は平年を9%、中以上いも重では19%上回った。また、でん粉価はほぼ平年並みであった。

品種名		男爵薯		
項目 \ 年次		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	4.30	5.03	△ 3
萌芽期	(月.日)	5.21	5.26	△ 5
開花始	(月.日)	6.22	6.23	△ 1
枯凋期	(月.日)	8.19	8.22	△ 3
茎長	6月20日	35	32	3
(cm)	7月20日	41	42	△ 1
茎数	6月20日	4.7	5.3	△ 0.6
(本/株)	7月20日	4.0	5.0	△ 1.0
8月20日における				
上いも数	(個/株)	12.8	14.0	△ 1.2
上いも平均一個重(g)		90	76	14
上いも重	(kg/10a)	5110	4666	444
でん粉価	(%)	14.7	14.8	△ 0.1
枯凋期における				
上いも数	(個/株)	12.8	13.9	△ 1.1
上いも平均一個重(g)		90	77	13
上いも重	(kg/10a)	5110	4699	411
中以上いも重(kg/10a)		4371	3678	693
でん粉価	(%)	14.7	14.9	△ 0.2
上いも重平年対比 (%)		109	100	9
中以上いも重 " (%)		119	100	19
でん粉価 " (%)		99	100	△ 1

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最凶)、19年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は21g/個以上、「中以上いも」は61g/個以上。